

P 型 1 級受信機

取扱説明書



1PZ シリーズ

ニッタン株式会社

はじめに

自動火災報知設備は、人命・財産を火災から守るための大切な設備です。
取扱説明書をよく読み、正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。

- 本受信機は、感知器や発信機からの火災信号を受けて火災表示を行い、他設備への連動等を自動制御する機能を有しています。
従って火災の発生を防止し、消火を行う設備ではありません。
- 自動火災報知設備は、常に正常な状態を維持するため、有資格者による定期点検及び日常点検を必ずおこなってください。
- 正しくお使いいただくため、この取扱説明書を大切に保管してください。




安全に正しくお使いいただくために



1/3

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、この取扱説明書にはいろいろな絵表示をしています。
製品をご使用前にご一読ください。

警告表示等の基準

本取扱説明書の中で表示している警告・注意表示等の基準は以下の通りです。

 危険	取扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性（切迫の度合い）が高い限定的な場合。 （高度な危険を含む）
 警告	取扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負う可能性がある場合、または機器に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、取扱関係者が軽傷を負うか物的損害が生じる可能性がある場合、または機器に悪影響を及ぼす可能性がある場合。

 禁止	 必ず守る
行為の禁止	行為の強制、および指示

安全に正しくお使いいただくために

2/3

■ 安全上のご注意



有資格者（消防設備士など）以外の方は盤内部に手を触れない。

感電や故障の原因になります。

濡れた手や金属の棒などで盤や盤内部に触れない。

感電や故障の原因になります。

機器の分解・改造を絶対しない。

感電や故障の原因になります。

正常監視時の受信機のスイッチは定位とし、正常な監視状態であることを常時確認する。

正常な監視状態でないと火災時に正常に動作しません。

電源投入時はスイッチが連動停止状態になるので十分注意する。

長期停電などで電源を切った場合、電源再投入時はスイッチが連動停止になりますので定位に戻してください。

使用温度範囲（0～+40℃）を超える場所、爆発性ガス、腐食性ガスの発生する場所では使用しない。

機器の故障や発火の原因になります。

点検等で作動させる場合は連動している設備の内容を十分確認して操作する。

不用意な操作は機器類に損害を与え、人に危害を及ぼすおそれがあります。

AC100V 専用です。

定格電圧以外の使用は、故障の原因や発火、発熱のおそれがあります。

ヒューズ交換は電源（AC100V）及び予備電源を切った状態で行う。

感電のおそれがあります。

ヒューズは必ず指定容量のものを使用する。

指定容量以外の使用は、故障の原因や発火、発熱のおそれがあります。

長時間停電する場合は電源を切る。

予備電源のバックアップ時間は約 1 時間程度となっています。長時間の停電で予備電源の容量が不足すると受信機の機能が停止するおそれがあります。又、予備電源の過放電は故障の原因となります。

水や雨のかかる場所（屋外など）および湿気の多い場所には設置しない。

感電や故障の原因になります。



機器に衝撃・振動を加えない。

故障の原因になります。

関係者以外、盤面の機器を操作しない。

誤った設定をされますと、正常な動作を行うことができなくなるおそれがあります。

清掃時にスイッチを操作しないよう十分注意する。

誤ってスイッチを操作してしまうと、他設備の誤作動や火災時に正常に作動しないおそれがあります。

絶縁抵抗試験、及び絶縁耐力試験は高電圧破壊防止の処置をした上で行う。

故障の原因になります。

トランシーバーなどを使用する場合は受信機から十分離す。

トランシーバーなど電波を発する機器を接近して使用すると誤作動する場合があります。

安全に正しくお使いいただくために

3/3

■ 予備電源 (密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池) の安全上のご注意

 危険**外装フィルムを剥がしたり、傷を付けたりしない。**

電池がショート状態になり易く、発熱、漏液、破裂のおそれがあります。

火中や水中に投入したり、加熱、分解、改造、はんだ付けなどをおこなったりしない。

発火、漏液、発熱、破裂の原因となります。

プラス・マイナスを間違えない。また電極間をショートさせない。

機器の故障の原因、発火、漏液、発熱、破裂のおそれがあります。

指定以外のものを使用しない。

故障の原因や発火、発熱のおそれがあります。

電解液が目に入った場合は、こすらずすぐにきれいな流水で十分に洗った後、ただちに医師の治療を受ける。

失明のおそれがあります。

 警告**電解液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちにきれいな水で洗い流す。**

皮膚に障害を起こす場合があります。

受信機に必ず接続する。

接続していない場合、停電時に機能しません。

 注意**直射日光の当たる場所や高温の場所で、使用・放置しない。**

性能や寿命の低下の原因や漏液のおそれがあります。

使用済みのものは、端子をテープなどで絶縁する。

発火、発熱、感電のおそれがあります。

端子台への接続は確実にを行う。

接続が不完全な場合、火災感電の原因になります。

予備電源を接続するときは、(+) と (-) を逆にして使用しない。

充電時には逆に充電され電池内部で異常な反応が起きたり、放電時には思わぬ異常な電流が流れたりして、電池を漏液、発熱、破裂させる原因となります。

使用前は必ず充電する。

使用前は電池が放電している場合があります。必ず充電してから使用してください。

必ず交流電源スイッチを OFF にし、予備電源の接続コネクタを外してから作業する。

感電や故障の原因になります。



必ず守る

密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池には寿命があります。5年を目途に交換してください。

劣化すると停電時に正常に機能しない場合があります。

密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。

廃棄せずに購入先または点検契約店へ返却してください。



Ni-Cd

定期点検について

自動火災報知設備は、火災を早期に発見し関係者に知らせることで火災から人命・財産を守り、被害を最小限に防ぐために設置する大切な設備です。

従って、設置後に正常な状態を維持するために定期的な点検が必要になります。

重 要

消防関係法令により、防火対象物の関係者（自動火災報知設備の設置してある建物の所有者、管理者または占有者）は、定期点検の実施及び点検結果の報告を行うことが義務づけられています。
点検をおこなった結果は維持台帳に記録するとともに、定める期間ごとに消防庁または消防署長に報告しなければなりません。

点検内容（消防法施行規則第 31 条の 6）

消防用設備等の点検は、種類及び点検内容に応じて、1 年以内で消防庁長官が定める期間ごとに行う必要があります。

消防用設備等の種類	点検の内容	消防庁長官が定める点検の期間
自動火災報知設備	機器点検	6 ヶ月に 1 回
	総合点検	1 年に 1 回
配線	総合点検	1 年に 1 回

報告期間（消防法施行規則第 31 条の 6）

消防用設備等の点検をおこなった結果は維持台帳に記録するとともに、定める期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

防火対象物の種類	消防長または消防署長に報告する期間
特定防火対象物	1 年に 1 回
特定防火対象物以外のもの	3 年に 1 回



目 次



1. 基礎編

1-1. 概要	1
1-2. 主操作部の名称と機能	2
1-3. カバー内操作部の名称と機能	4
1-4. 7セグ表示部の機能	6
1-5. 盤内部の名称と機能	7

2. 運用編

2-1. 正常監視時	9
2-2. 受信機音響が鳴動した時・・・	10
2-3. 火災警報が発生した時・・・	12
2-4. 諸警報設備などが作動した時・・・	13
2-5. 障害が発生した時・・・	14
2-6. 火災表示を復旧させたい時・・・	17
2-7. 誤操作防止機能	18

3. 保守編

3-1. 保守機能	19
3-2. 警報音を止めておきたい時・・・	20
3-3. 放送設備への移報を止めておきたい時・・・	22
3-4. 連動動作を止めておきたい時・・・	23
3-5. 火災試験	24
3-6. その他試験機能	25
3-7. ヒューズの交換方法と部品の交換寿命	27
3-8. 予備品リスト	28
3-9. 定格・仕様	29

1-1. 概要

■ 受信機外観 (図は 20 回線の受信機です。)

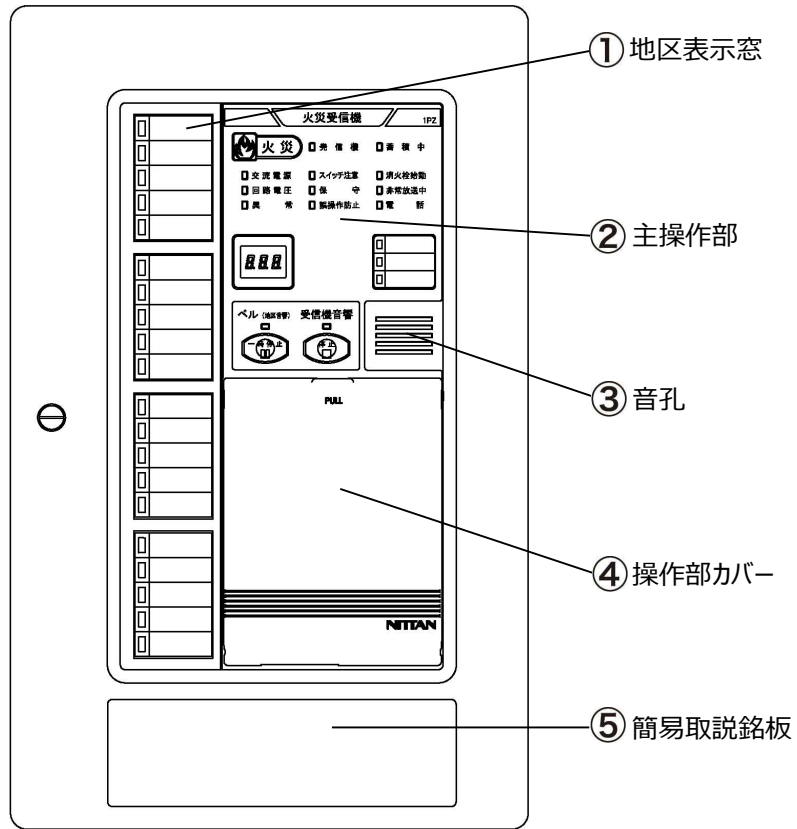
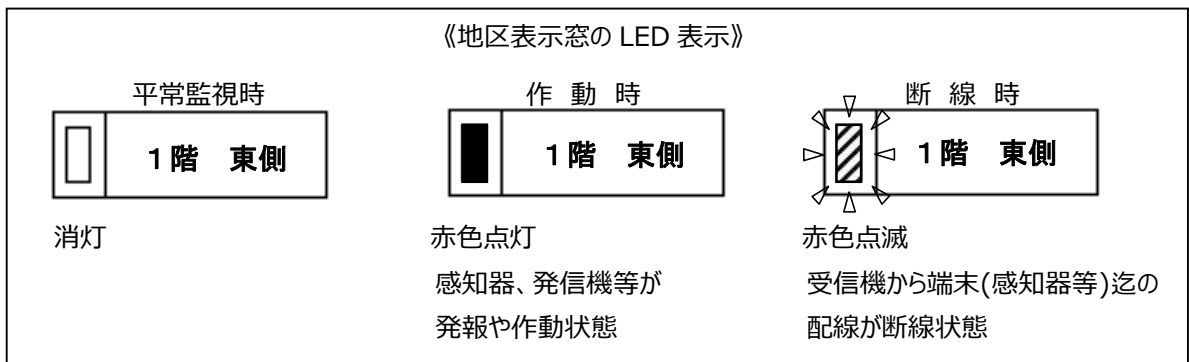


図 1-1 : 外観図

■ 地区表示窓外観図

火災が発生した場所を表します。



1-2. 主操作部の名称と機能

1/2

■ 操作部外観図



図 1-2 : 操作部外観図 (LED 表示部)

- ① **火災代表灯(赤)**
火災発報時に点灯します。
- ② **交流電源灯(青)**
交流電源 (AC100V) が主電源回路に供給されている時に点灯します。
(停電時等で交流電源が供給されない時は消灯)
- ③ **回路電圧灯(青)**
受信機の主回路電圧が正常時 (約 20.4V 以上) に点灯し、約 20.4V を下回ると消灯します。
- ④ **異常灯(黄)**
異常時に点滅します。
異常の内容は、7 セグ表示部にエラーコードで表示されます。
※エラーコード一覧は、P15 を参照願います。
- ⑤ **発信機灯(赤)**
発信機が押された時に点灯します。
- ⑥ **スイッチ注意灯(赤)**
スイッチが定位ではない時に点滅します。
以下が該当するスイッチとなります。
- ・盤面スイッチ

全館鳴動	移報停止	消火栓連動停止
非常放送移報停止	試験復旧	火災試験ベル(地区音響)一時停止
 - ・盤内スイッチ

保守	蓄積解除	誤操作防止
----	------	-------
- ⑦ **保守灯(赤)**
保守モード時に点滅します。
※保守モードについては、P20 を参照願います。
- ⑧ **誤操作防止灯(赤)**
誤操作防止モード時に点灯します。
※誤操作防止機能については、P18 を参照願います。
- ⑨ **蓄積中灯(赤)**
火災発報時や火災信号の受信時に点灯します。
感知器から火災信号を受信後、約 60 秒間火災発報しないときは消灯します。
また、蓄積解除を設定している場合は点滅します。
※蓄積解除スイッチについては、P8 を参照願います。
- ⑩ **消火栓始動灯(赤)**
消火栓ポンプが始動した時に点滅します。
- ⑪ **非常放送中灯(赤)**
非常放送のマイクスイッチ入力時に点灯します。
地区音響が鳴動しているときは、マイクスイッチ入力時に地区音響を停止します。
- ⑫ **電話灯(赤)**
発信機、副受信機の電話ジャックに送受話器のプラグが差し込まれると受信機から警報音が鳴動し、点灯します。
また、受信機の電話ジャックにプラグを差し込んだ場合でも点灯します。

1-2. 主操作部の名称と機能

2/2

■ 操作部外観図

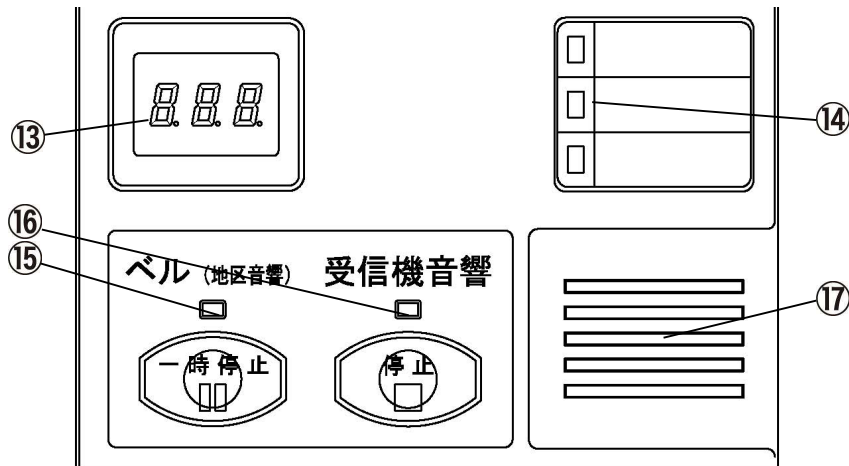


図 1-3 : 操作部外観図

⑬ 7セグ表示部

異常時のエラーコードや火災発報している回線番号等をデジタル表示します。

⑭ 諸警報表示部及び灯(赤)

警報信号入力時に点灯し、断線時に点滅します。
(断線表示は、データ設定により断線監視を有りにした場合のみ)

⑮ ベル(地区音響)一時停止スイッチ及び灯(赤)

この灯は、点滅で地区音響の鳴動停止、点灯で事前停止状態を表します。

- i) 火災警報発生時に押すと地区音響の鳴動を停止します。
火災状態が継続すると設定した時間 (※1) 後に再鳴動します。

区分鳴動の場合は、火災発報後、設定した時間 (※2) 経過後、全館鳴動に移行します。

2 報目の火災入力 (発信機からの火災入力時は 1 報目) でも全館鳴動します。

- ii) 正常監視時にスイッチを押すと地区音響が事前停止状態になります。

この状態で火災発報すると設定した時間 (※1) 後に地区音響が鳴動します。

スイッチは、再度押すことで定位の状態に戻す事ができます。

※1 TA (鳴動遅延) 時間をデータにより 2、4、6、8 分の任意設定が可能。

但し、※2 の設定時間より長い時間は設定できません。(初期設定: 4 分)

※2 TC (拡大鳴動) 時間をデータにより OFF、4、6、8、10 分の任意設定が可能。(初期設定: 6 分)

また、**全館鳴動** スイッチによる鳴動は停止できません。

再度 **全館鳴動** スイッチを押し鳴動を停止してください。

⑯ 受信機音響停止スイッチ及び灯(赤)

この灯は、受信機の警報音が鳴動中に点滅し、スイッチを押すことで警報音が停止し、灯が消灯します。また、新たな警報が発生した場合は、再度鳴動し、灯も点滅します。

※発信機や副受信機に送受話器を差し込んだ場合も受信機の音響は鳴動します。

この場合は、受信機の電話ジャックに送受話器を差し込むことにより鳴動が停止します。

このスイッチを押しても音響は停止しません。

なお、灯も点滅しません。

⑰ 音孔

受信機の警報音、電話の呼び出し音が鳴動します。

1-3. カバー内操作部の名称と機能

1/2

■ 操作部外観図

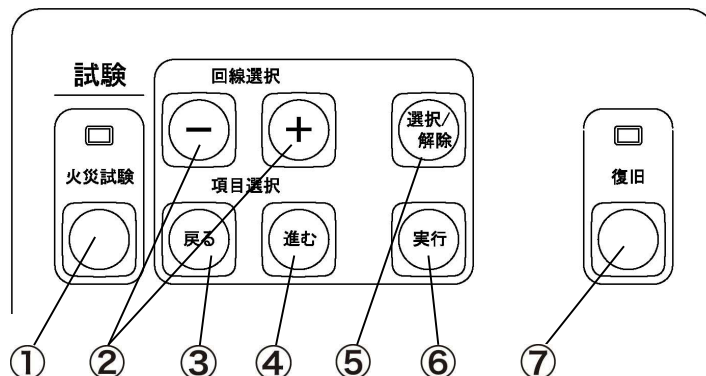


図 1-4 : 操作部外観図 (スイッチ部)

- ① **火災試験スイッチ及び灯(赤)**
火災試験を行う際に使用します。
スイッチを押すと点灯し、再度押すと消灯します。
試験中は点灯します。
- ② **回線選択 (+ -) スイッチ**
火災試験やエラーコードの確認、データ設定に使用します。
- ③ **戻るスイッチ**
エラーコードの確認やデータ設定に使用します。
- ④ **進むスイッチ**
エラーコードの確認やデータ設定に使用します。
- ⑤ **選択/解除スイッチ**
データ設定に使用します。
- ⑥ **実行スイッチ**
火災試験やデータ設定に使用します。
- ⑦ **復旧スイッチ及び灯(赤)**
受信機の火災保持等を復旧させる際に使用します。
なお、復旧中は点灯します。
※火災保持の感知器を含む全ての感知器、移行出力が
監視状態に戻ります。

1-3. カバー内操作部の名称と機能

2/2

■ 操作部外観図

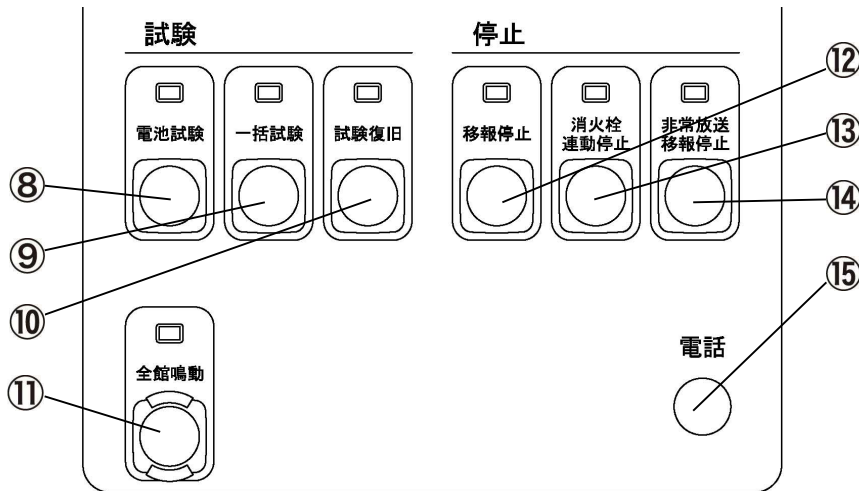


図 1-5 : 操作部外観図 (スイッチ部)

⑧ 電池試験スイッチ及び灯(赤)

予備電源の試験を行う事ができます。
試験中は点灯し、「7 セグ表示部」に予備電源の電圧を表示します。
表示が約 20.4 以上であれば正常です。

⑨ 一括試験スイッチ及び灯(赤)

自動的に受信機の火災回路試験、諸警報表示回路試験、表示灯点灯試験、電池試験を行います。
一括試験中は点灯します。
本試験による火災発報動作、地区音響鳴動及び移信出力は行いません。
定期試験中はこの灯が点滅します。
スイッチを長押し(約 3 秒)すると定期試験を行うことができます。

⑩ 試験復旧スイッチ及び灯(赤)

火災試験時や点検時に使用します。
スイッチを押すことで蓄積機能が解除され、発報した感知器回路に感知器への復旧信号を送ります。

⑪ 全館鳴動スイッチ及び灯(赤)

接続されている全ての地区音響を鳴動させる際に使用します。
本スイッチの操作で鳴動した地区音響は、
ヘル(地区音響)一時停止 スイッチでは、鳴動を停止できません。
なお、操作中は点灯し、再度押すと消灯し、地区音響の鳴動が停止します。

⑫ 移報停止スイッチ及び灯(赤)

他設備への移報信号を停止します。
なお、停止中は点灯します。
停止できる信号はデータ設定により選択できます。
・移報 1 (GA1-GB1-GC1)
・移報 2 (GA2-GC2)
・移報 3 (GA3-GC3)
・火災代表 (F-F')
・異常移信 (K-K')
・停電移信 (PF-PF')
・諸警報移信 1 (LX1A-LX1C)
・諸警報代表移信 (LXGA-LXGC)

⑬ 消火栓連動停止スイッチ及び灯(赤)

発信機の操作による消火ポンプ連動を停止します。
なお、停止中は点灯します。

⑭ 非常放送移報停止スイッチ及び灯(赤)

非常放送設備や音声警報装置への移報を停止します。
なお、停止中は点灯します。

⑮ 電話ジャック

送受話器を差し込み、現地の送受話器と通話ができます。

1-4. 7セグ表示部の機能

7セグ表示部では、火災が発生した回線や異常が発生した内容等を英数字により表示します。

★複数イベントが発生した場合における表示の優先について

高 火災試験表示 > 火災発報表示 > 予備電源電圧表示 (電池試験時) > エラーコード表示 低

■ 火災発報表示

第 1 報の回線番号を固定表示します。



■ 予備電源電圧表示(電池試験時)

電池試験時に予備電源の電圧を表示します。

※電池試験の方法は、P25 を参照願います。



■ 異常発生時

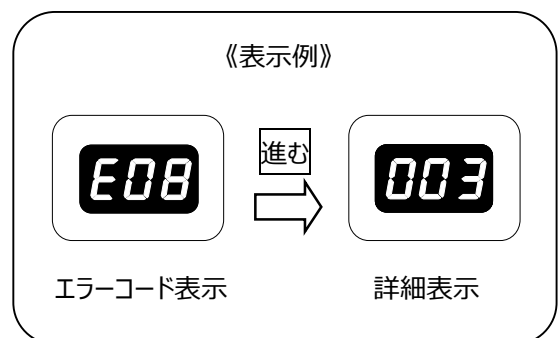
異常内容をエラーコードで表示します。

エラーコードの中には、枝番号で詳細を表示するコードもあります。

その場合は、**進む** スイッチを選択して確認することができます。

※各エラーコードの詳細については、P15 を参照願います。

また、受信機操作部カバー裏面でも確認可能です。



1-5. 盤内部の名称と機能

■ 内部の各部名称

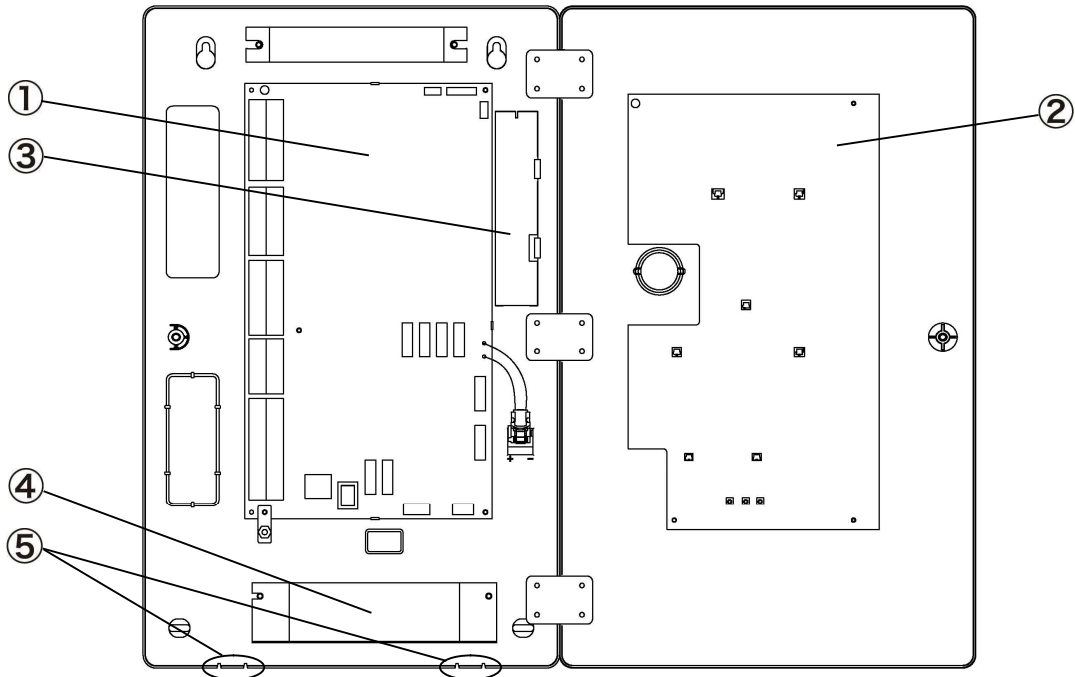


図 1-6 : 受信機内部レイアウト

表 1-1 : 内部機器名称

①	制御基板	③	予備電源	⑤	携帯用送受信器収納袋用フック
②	操作基板	④	スイッチングレギュレータ		

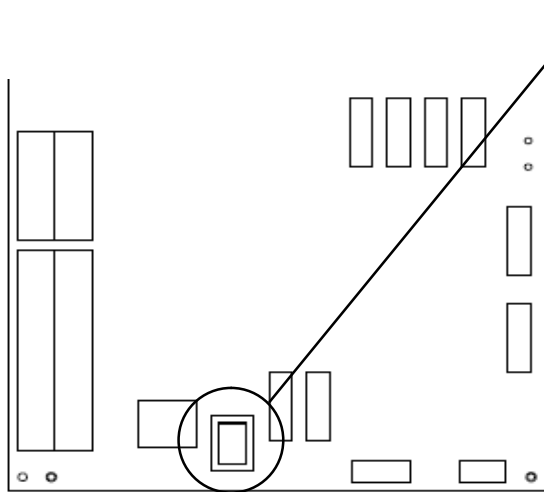


図 1-7 : 制御基板下部拡大

主電源スイッチ

本受信機が、常時使用する交流電源（AC100V）を ON/OFF するスイッチです。

ON 側に倒すと受信機に交流電源が供給され、操作部の【交流電源】灯が点灯します。

OFF 側に倒すと予備電源に切り替わり、内蔵されている予備電源から受信機に自動的に電源が供給されるようになります。

また、予備電源から電源が供給されている場合は、操作部の【交流電源】灯は消灯します。

電源投入時、**移報停止**、**消火栓連動停止**、**非常放送移報停止** の各スイッチは連動停止で立ち上がります。

1-5. 盤内部の名称と機能

2/2

● 操作基板上のスイッチ

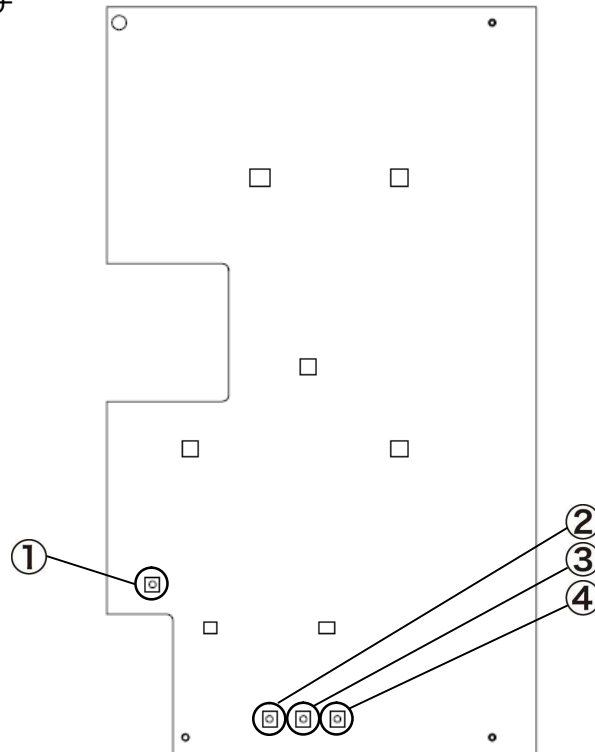


図 1-8 : 操作基板レイアウト (受信機扉裏面)

① 保守スイッチ

スイッチを押すことで保守モードに入ります。
 保守モード中は、操作部の【保守】、【スイッチ注意】、【ベル(地区音響)一時停止】、【受信機音響停止】の各灯が点滅し、**移報停止**、**消火栓連動停止**、**非常放送移報停止**、**試験復旧** の各スイッチが点灯 (ON) の状態になります。

また、受信機から間欠鳴動 (約 30 秒間隔でピッ) します。

モード解除する場合は、再度スイッチを押してください。

※詳細は P20 を参照願います。

② 蓄積解除スイッチ

感知器入力により火災信号の蓄積を解除し、直ちに発報します。

蓄積解除中は、操作部の【蓄積中】灯及び【スイッチ注意】灯が点滅します。

解除する場合は、再度スイッチを押してください。

③ 誤操作防止スイッチ

誤操作防止中は、盤面上にあるスイッチの操作ができなくなり、操作部の【誤操作防止】灯が点灯し、【スイッチ注意】灯が点滅します。

※詳細は P18 を参照願います。

④ データ設定スイッチ

盤面上でデータを設定する時に使用します。

スイッチを長押し (約 3 秒) するとデータ設定モードに移行します。

2-1. 正常監視時

■ 正常監視時の外観図

正常監視時は、【交流電源】灯及び【回路電圧】灯のみが点灯します。
 その他はすべて消灯しています。

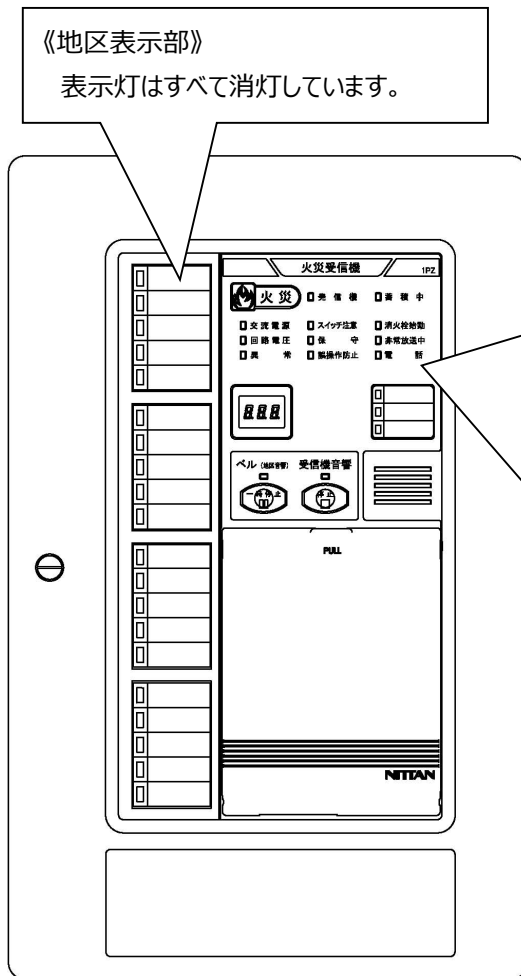


図 2-1-1 : 受信機外観図



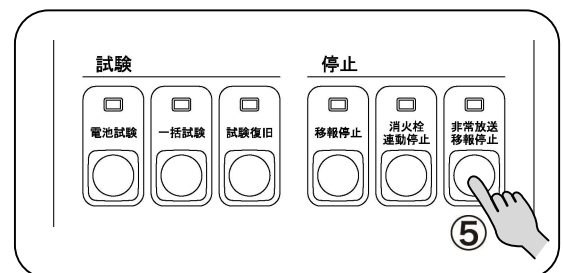
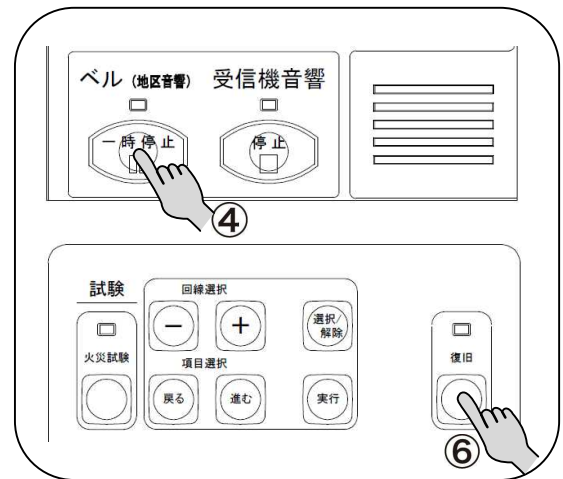
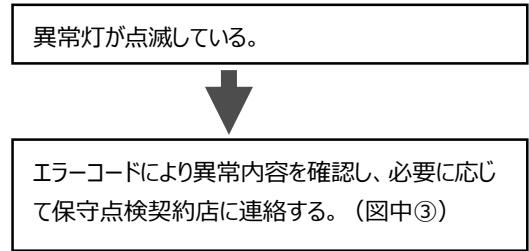
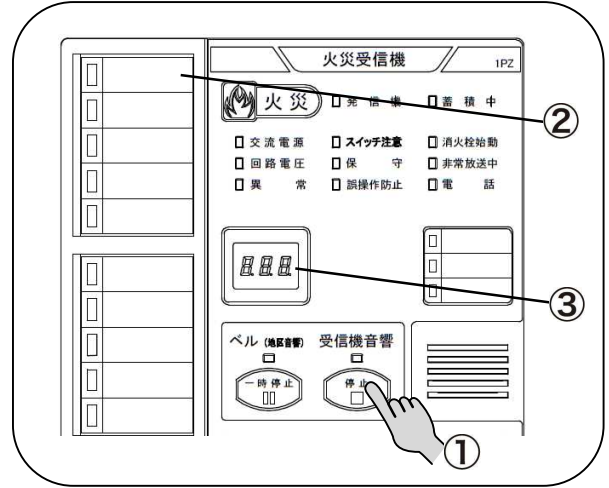
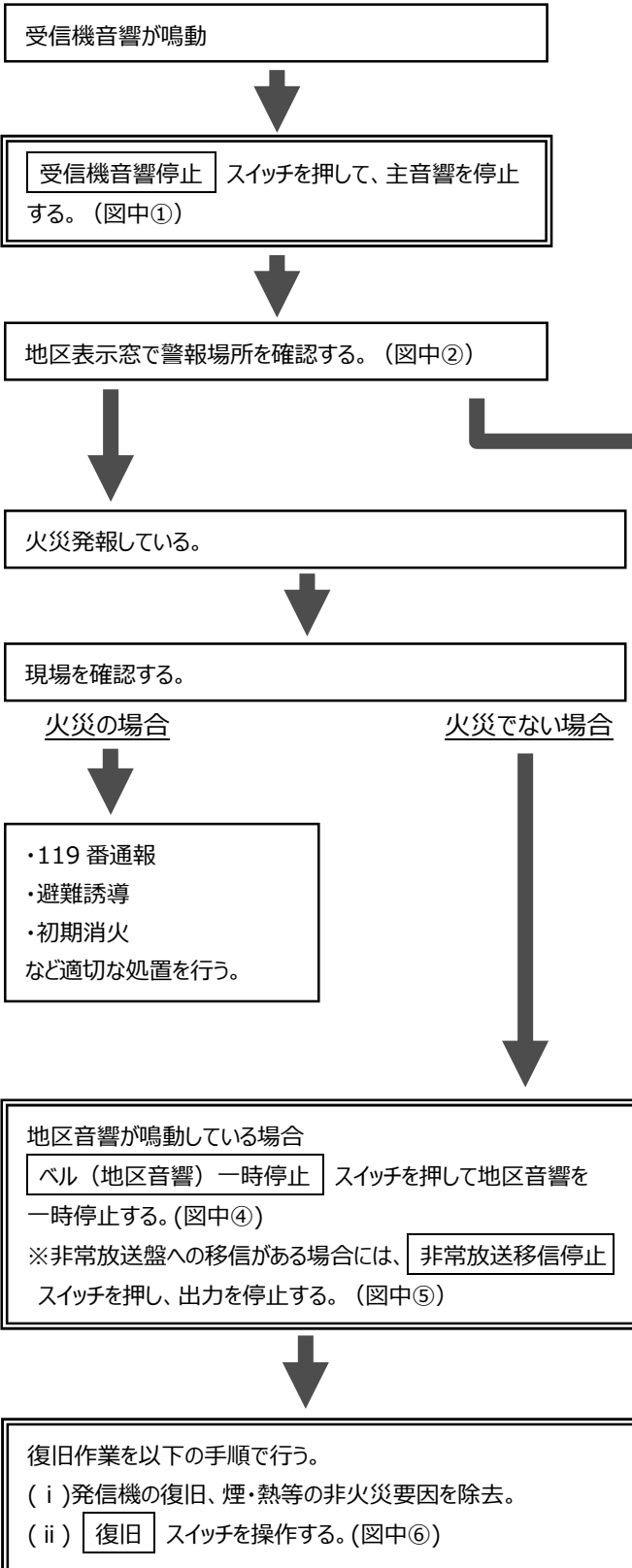
図 2-1-2 : 表示部拡大図

2-2. 受信機音響が鳴動した時・・・

受信機音響が鳴動した時は、落ち着いて以下の操作をおこなってください。

(: 受信機の操作が必要な項目)

■操作フロー



2-2. 受信機音響が鳴動した時・・・

■ 受信機の音響について

表 2-1 : 警報音一覧

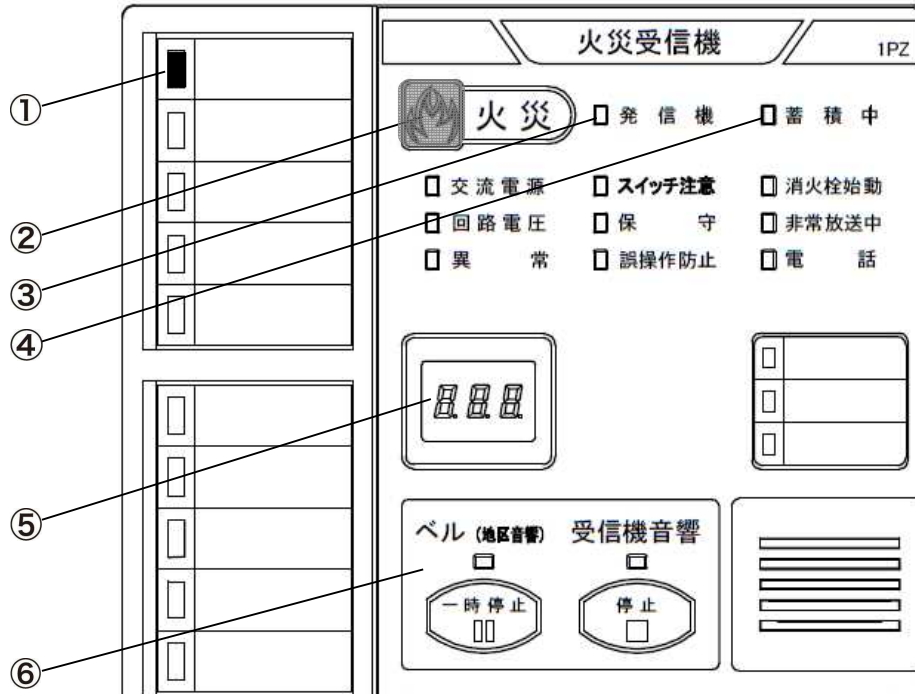
状 態		警 報 音
①	火災蓄積開始	ピッ ※1 回鳴動と断続鳴動 (3 秒周期) をデータ設定で選択可能
②	火災警報	ピー-----
③	諸警報入力	ピッピッ、ピッピッ、ピッピッ・・・
④	異常警報	ピー、ピー、ピー・・・
⑤	電話	ピッピッピッピッピッ、ピッピッピッピッピッ・・・
⑥	保守	ピッ (約 30 秒間隔で間欠鳴動)
⑦	停電	ピッ (約 60 秒間隔で間欠鳴動)

※⑤⑥⑦は受信機の音響停止スイッチを押しても鳴動は停止しません。

※⑤は電話ジャックにジャックを差し込む事で音響の鳴動が停止します。

2-3. 火災警報が発生した時・・・

感知器（または発信機）が発報した場合は、火災警報音が鳴動し、下記の各表示部に警報を表示します。



■表示・操作部

- ① 【地区表示窓】が点灯し、発生場所を表示します。
- ② 【火災】代表灯が点灯します。
- ③ 【発信機】灯は、発信機が押された時に点灯します。
- ④ 【蓄積中】灯は、感知器発報または発信機が押された時に点灯します。
- ⑤ 「7セグ表示部」では、発報している回線の一報目を固定表示します。

《表示例（1回線目発報）》



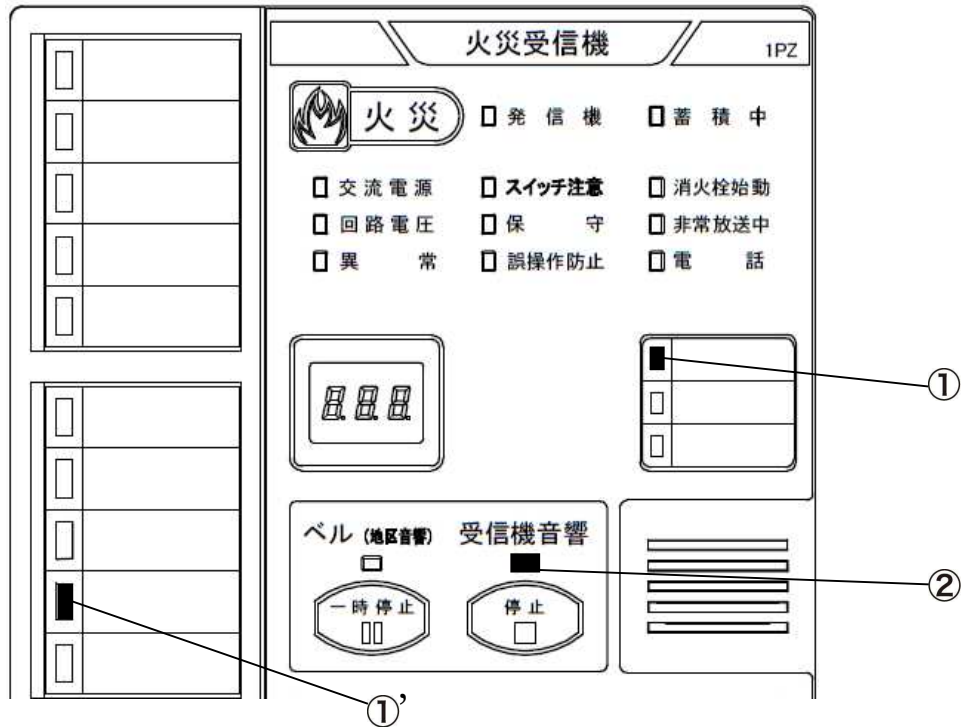
- ⑥ 【受信機音響停止】灯が点滅します。

【受信機音響停止】スイッチを押すと受信機音響が停止し、【ベル(地区音響)停止】スイッチを押すと地区音響が一時停止し、【ベル(地区音響)一時停止】灯が点滅します。

実火災時には、避難誘導、初期消火、119番通報をおこなってください。

2-4. 諸警報設備などが作動した時・・・

諸警報設備などが作動した場合は、諸警報入力音が鳴動し、下図の各表示部に警報を表示します。



■ 表示・操作部

- ① 【諸警報表示】灯は、該当する警報回線が作動すると点灯します。
 ※ 地区表示窓に諸警報回線を設定している場合は、【地区表示窓】灯
 ①'の該当回線が作動すると点灯します。
- ② 【受信機音響停止】灯が点滅します。
 受信機音響停止 スイッチを押すと受信機音響が停止します。



地区表示窓を諸警報に設定した場合、常時入力状態で使用しないでください。
 機器の故障や発熱の原因になります。

2-5. 障害が発生した時・・・

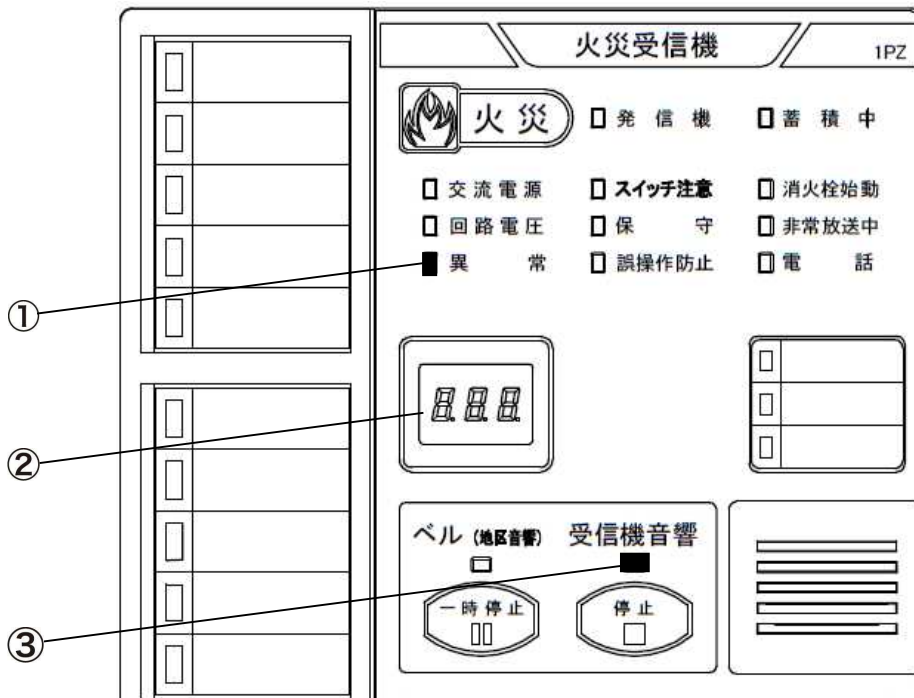
1/3

システムに何らかの障害が発生した場合は、警報音が鳴動し、下記の各表示部にて警報表示します。

■表示・操作部

障害が発生した場合は、操作部内の【異常】灯が点滅し、「受信機音響」が鳴動します。

また、「7セグ表示部」には、異常内容に対応したエラーコードが表示されます。



① 【異常】灯が点滅します。

② 「7セグ表示部」では、現在発生している異常・故障をエラーコードで表示します。

複数の障害が発生している場合は、「回線選択 +
 - スイッチ」で切り替えることで確認できます。

また、エラーコードの中には、枝番号で詳細を表示するものがあります。(E08-003 等)

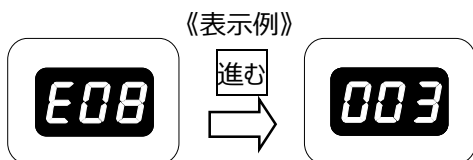
詳細を確認する場合は、 進む スイッチを選択し、確認することができます。

※エラーコード一覧は、P15 を参照願います。

また、受信機操作部カバー裏面でも確認可能です。

③ 【受信機音響停止】灯が点滅します。

受信機音響停止 スイッチを押すと受信機音響が停止し、【受信機音響停止】灯が消灯します。



2-5. 障害が発生した時・・・

■エラーコード

表 2-2 : エラーコード一覧

コード	エラー項目	コード	エラー項目
E01	地区線断線 (001~020 で回線表示)	E10	メモリ異常
E03	諸警報線(3窓)断線 (001~003 で回線表示)	E11	電池充電異常
E06	予備電池未接続	E12	受信機音響脱落
E07	回路電圧異常	E13	非常放送線断線
001	回路電圧異常	E14	非常放送線短絡
002	電池試験異常	E15	定期試験異常
E08	ヒューズ断	001	地区試験異常
001	予備電池ヒューズ断	002	諸警報(3窓)試験異常
002	表示灯ヒューズ断	003	電池試験異常
003	地区音響ヒューズ断	E16	一括試験異常
004	副受信機ヒューズ断	001	地区試験異常
005	発信機ヒューズ断	002	諸警報(3窓)試験異常
E09	内部通信異常	003	電池試験異常

※エラーコード一覧は、受信機操作部カバー裏面でも確認が可能です。

2-5. 障害が発生した時・・・

■障害発生時の対応

表 2-3 : 障害内容および対処法

エラーコード	内容	考えられる要因	対応方法
E01	地区線断線	・感知器線又は諸警報線(地区表示窓)の断線 ・終端器 (CRE) が外れている。	・保守点検契約店に連絡する。
E03	諸警報線(3窓)断線	・諸警報線が断線している。 ・終端器 (CRE) が外れている。	・保守点検契約店に連絡する。
E06	予備電池未接続	・受信機内の電池のコネクタが外れている。	・電池のコネクタを接続する。
E07 ※	回路電圧異常	・交流電源 (AC100V) が遮断されていて、 電圧低下した予備電源で動作している。 (【交流電源】灯が消灯)	・盤内の 交流電源 スイッチを ON する。 ・停電を復電させる。
E08 ※	ヒューズ断	・ヒューズが切れている。 (進む スイッチを押すことで該当ヒューズの 特定が可能)	・保守点検契約店に連絡する。
E09	内部通信異常	・基板又はコネクタの接触不良、断線など。	・保守点検契約店に連絡する。
E10	メモリ異常	・制御基板のメモリ異常	・保守点検契約店に連絡する。
E11	電池充電異常	・予備電源電圧が低下している。	・保守点検契約店に連絡する。
E12	受信機音響脱落	・受信機音響が外れている。 (受信機の音響が鳴らない状態)	・受信機音響のコネクタを接続する。
E13	非常放送線断線	・非常放送設備への配線 (EB-EB') が断線 している。 ・終端器 (RRE) が外れている。	・保守点検契約店に連絡する。
E14	非常放送線短絡	・非常放送設備への配線 (EB-EB') が短絡 している。	・保守点検契約店に連絡する。
E15 ※	定期試験異常	・予備電源電圧が低下している。 (電池試験を行い【回路電圧】灯が消灯するよ うであれば電池の交換が必要) ・基板の異常 ・外線の異常	・保守点検契約店に連絡する。
E16 ※	一括試験異常	・予備電源電圧が低下している。 (電池試験を行い【回路電圧】灯が消灯するよ うであれば電池の交換が必要) ・基板の異常 ・外線の異常	・保守点検契約店に連絡する。

※印については、**進む** スイッチにて、枝番号を表示し、詳細を確認してください。



有資格者 (消防設備士など) 以外の方は盤内部に手を触れない。

感電や故障の原因になります。

濡れた手や金属の棒などで盤や盤内部に触れない。

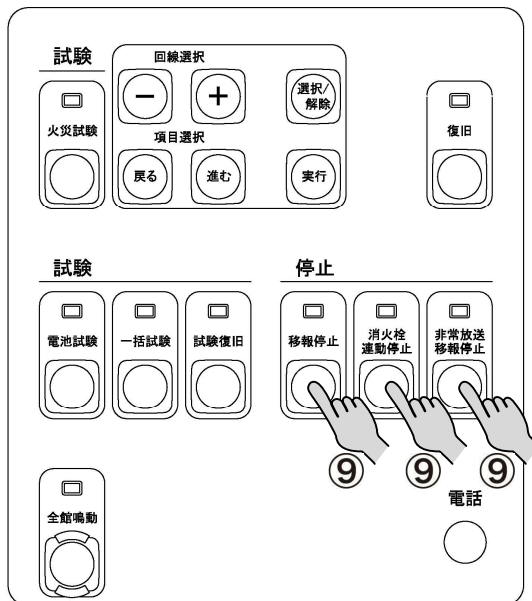
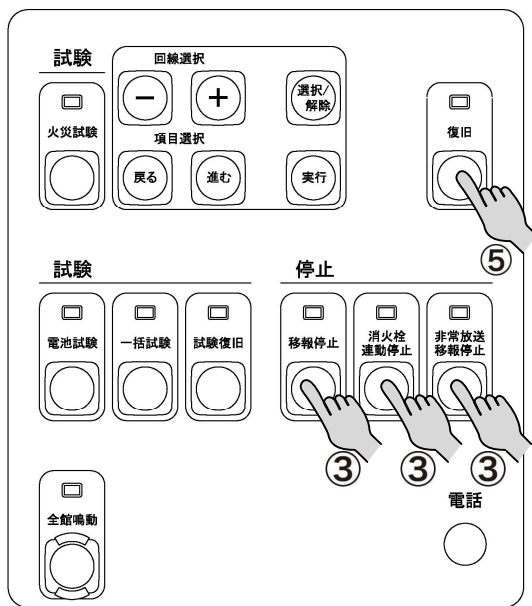
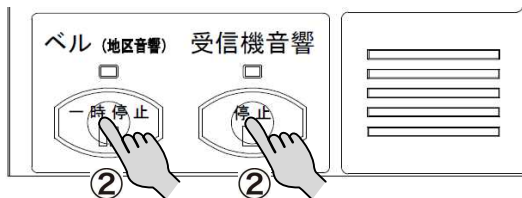
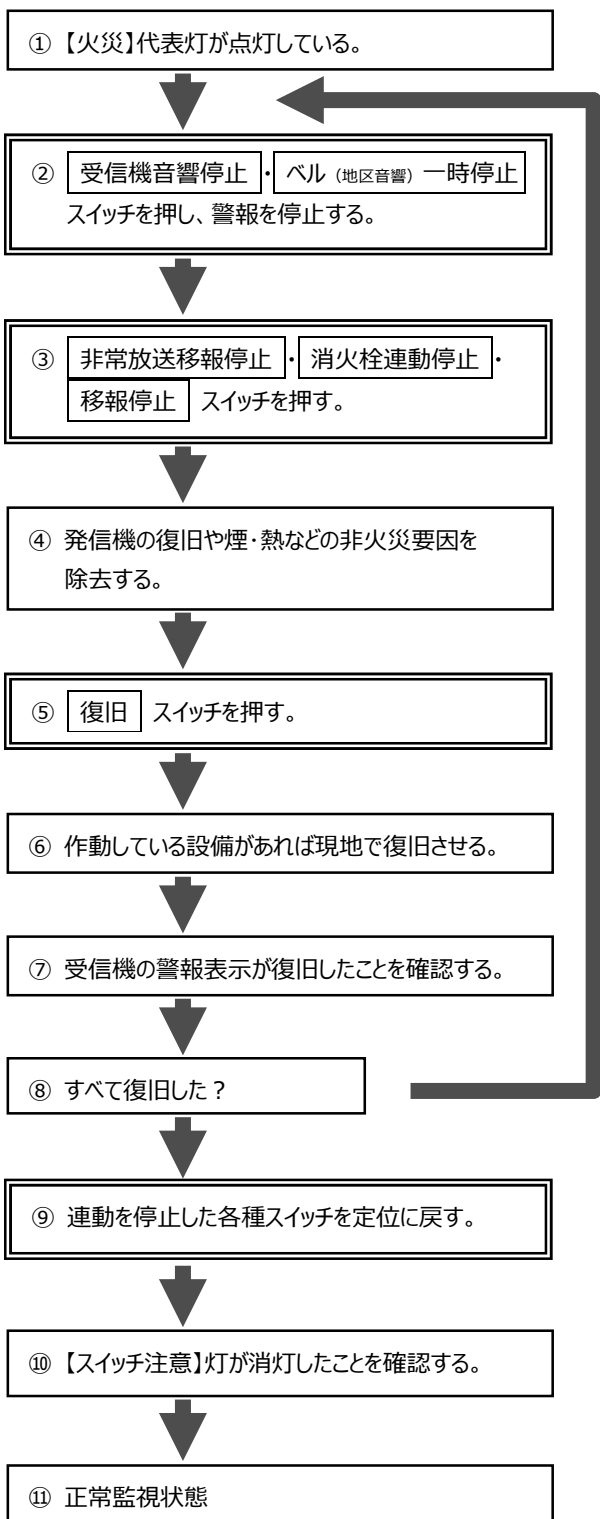
感電や故障の原因になります。

2-6. 火災表示を復旧させたい時・・・

発生した警報が非火災やいたずら等によるものだった時、「復旧」を行うことで端末や受信機の警報表示を復旧し、正常監視状態に戻します。

異常や諸警報の入力は、要因を復旧することで自動的に正常監視状態に戻ります。

■ 復旧操作フロー（ ：受信機の操作が必要な項目）



2-7. 誤操作防止機能

本機能は、受信機を誤操作しないために、火災発報や障害などの緊急時以外は操作を無効にする機能です。

すべてのスイッチが定位の時、蓄積中及び火災発報中でない時、及び、障害が発生していない時に盤内の
誤操作防止 スwitchを押すことによって盤面のSwitch操作を無効にすることができます。

■ 実行方法

- ① すべてのスイッチが定位にある状態（【スイッチ注意】灯消灯）及び、正常監視状態であることを確認する。
- ② 盤内の操作基板上にある 誤操作防止 スwitchを押す。

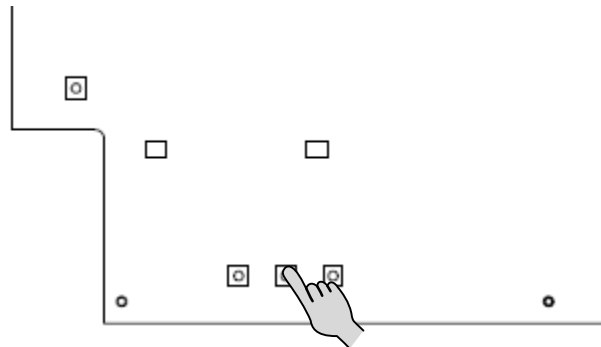


図 2-1：操作基板（受信機扉裏面）

- ③ 操作部の【誤操作防止】灯が点灯し、【スイッチ注意】灯が点滅していれば、誤操作防止モードに設定されています。

■ 誤操作防止モードの解除

- ・受信機が蓄積中及び火災発報状態、諸警報入力、感知器断線等の異常が発生すると、自動的にモードを解除し、操作ができるようになります。
- ・再度 誤操作防止 スwitchを押すことで解除します。



有資格者（消防設備士など）以外の方は盤内部に手を触れない。

感電や故障の原因になります。

濡れた手や金属の棒などで盤や盤内部に触れない。

感電や故障の原因になります。

3-1. 保守機能

■ 保守機能について

本受信機には、法定点検時に活用できる各種機能が装備されています。

各機能の内容及び操作方法をご理解頂き、正しい法定点検の実施をお願いいたします。

主な機能

- ① 非常放送への移報停止 カバー内スイッチ操作
- ② 他設備への移信停止 カバー内スイッチ操作
- ③ 消火栓の連動停止 カバー内スイッチ操作
- ④ 各種点検に関わる設定
 - ・試験復旧 カバー内スイッチ操作
 - ・蓄積解除 盤内スイッチ操作
- ⑤ 各種試験
 - ・定期試験 自動で試験 (週に一度)
 - ・一括試験 カバー内スイッチ操作
 - ・火災試験 カバー内スイッチ操作
 - ・電池試験 カバー内スイッチ操作
- ⑥ 保守設定 (強制音響停止等) 盤内スイッチ操作

3-2. 警報音を止めておきたい時・・・

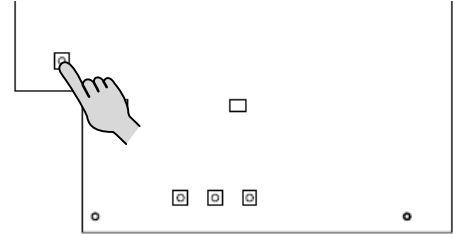
1/2

点検時に受信機音響、地区音響装置、副受信機音響を鳴動させたくない時に以下の操作を行う事で、鳴動を止めることができます。

■ 保守モード

盤内の **保守** スイッチを押すことで、受信機は保守モードに設定されます。

このモード中は、戻し忘れ防止のため、約 30 秒間に 1 回、注意音が鳴動します。



■ 保守モード中の動作

1) 音響停止

- ・受信機音響 (戻し忘れのための注意音響は除く)
- ・地区音響
- ・副受信機音響 (端子：IB)

2) 移報停止

- ・火災代表移報※ (端子：GA1-GB1-GC1、GA2-GC2、GA3-GC3、F-F')
- ・消火栓連動※ (端子：H-H')
- ・非常放送移報 (端子：EC-FB1~20)
- ・停電移信※ (端子：PF-PF')
- ・異常代表移信※ (端子：K-K')
- ・諸警報移信※ (端子：LX1A-LX1C、LXGA-LXGC)

3) その他

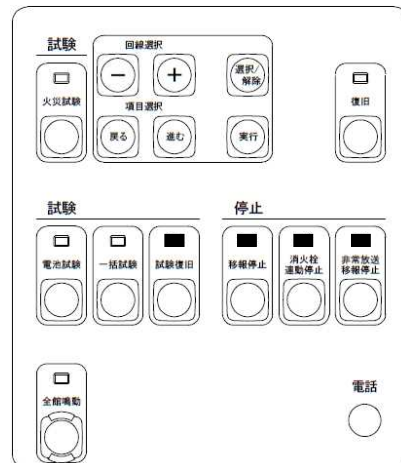
- ・試験復旧※

※ 保守モード中にもスイッチ操作により解除できます。移報停止の仕様は、データ設定により異なります。

■ 保守モード設定時の操作部及びスイッチ状態



- ・【スイッチ注意】灯 : 点滅
- ・【保守】灯 : 点滅
- ・【ベル(地区音響)一時停止】灯 : 点滅
- ・【受信機音響停止】灯 : 点滅



- ・【移報停止】灯 : 点灯
- ・【消火栓連動停止】灯 : 点灯
- ・【非常放送移報停止】灯 : 点灯
- ・【試験復旧】灯 : 点灯

3-2. 警報音を止めておきたい時・・・

2/2

保守モードに移行した時に ON 状態に移行した各スイッチは保守モード中であっても再度スイッチを押すことで定位に戻ります。(ベル(地区音響)一時停止 スwitchと 非常放送移報停止 スwitchは除く)

■ 保守モードの解除操作

保守モードを解除する場合は、盤内にある **保守** スwitchを再度押してください。
また、保守モード時に定位から ON 状態に移行したスswitchは自動解除されません。
各スswitchをそれぞれ押して定位に戻してください。
各スswitchを定位に戻し、【スswitch注意】灯が点滅していないことを確認してください。

■ 保守モード中の地区音響ワンショット出力

保守モード中は、発報しても地区音響は鳴動しませんが、以下の操作を行うことにより、発報時に地区音響を一瞬だけ鳴動させることができますようになります。

- ① 保守モードに入った後、**ベル(地区音響)一時停止** スwitchを長押し (約 3 秒) してください。
- ② 【ベル(地区音響)一時停止】灯が高速点滅に切り替われば、ワンショット出力の状態です。
通常の保守モードに戻す場合は、再度、**ベル(地区音響)一時停止** スwitchを長押し (約 3 秒) してください。
点滅の速度が低速に戻っていることを確認してください。
また、このワンショット出力状態の保守モード中に盤内の **保守モード** スwitchを押すことで保守モード自体を解除できます。

※保守モード中は、**全館鳴動** スwitchの入力は受け付けませんので、地区音響装置の全館鳴動はできません。



有資格者（消防設備士など）以外の方は盤内部に手を触れない。

感電や故障の原因になります。

濡れた手や金属の棒などで盤や盤内部に触れない。

感電や故障の原因になります。

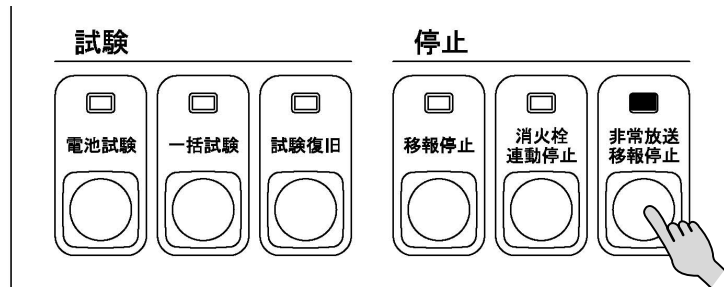
3-3. 放送設備への移報を止めておきたい時・・・

点検時等に非常放送設備を火災連動させたくない時には、以下の操作を行うことで連動を停止できます。
また、点検終了後はスイッチを必ず定位に戻してください。

■非常放送設備への移報を停止する方法

非常放送移報停止 スイッチを押してください。

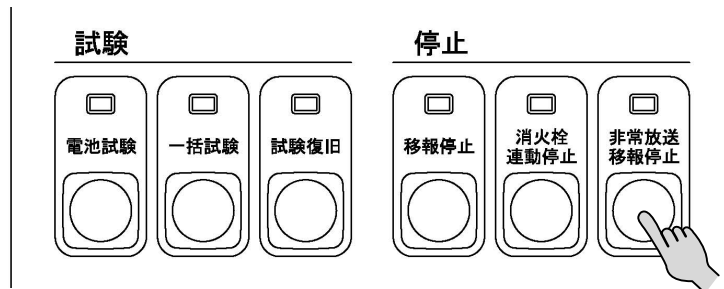
この時、【非常放送移報停止】灯が点灯し、【スイッチ注意】灯が点滅します。



■定位への戻し方

【火災】代表灯が点灯していないことを確認し、再度、**非常放送移報停止** スイッチを押すことで定位に戻ります。

この時、【非常放送移報停止】灯と【スイッチ注意】灯が消灯したことを確認してください。



※補足事項

非常放送設備の放送が鳴動した後で、移報停止をおこなっても非常放送を止めることはできません。

その場合は、受信機で **非常放送移報停止** スイッチを操作し、移報停止状態にした後に非常放送盤で復旧操作をおこなってください。

(非常放送設備の操作方法は、非常放送盤の取扱説明書を参照願います。)

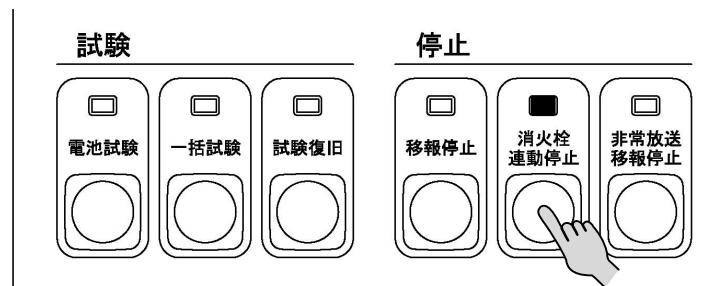
3-4. 連動動作を止めておきたい時・・・

点検時に他設備への移信を止めておきたい時は、以下の操作を行うことで止めることができます。
また、点検終了後はスイッチを必ず定位に戻してください。

■ 消火栓への連動を停止する方法

消火栓連動停止 スイッチを押してください。

この時、【消火栓連動停止】灯が点灯し、【スイッチ注意】灯が点滅します。

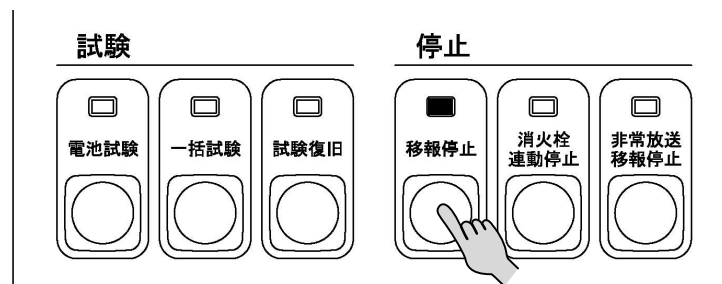


■ 火災代表移報を停止する方法

移報停止 スイッチを押してください。

この時、【移報停止】灯が点灯し、【スイッチ注意】灯が点滅します。

※データ設定により停止させたい移信を設定できます。



■ 定位への戻し方

再度、各スイッチを押すことで定位に戻ります。

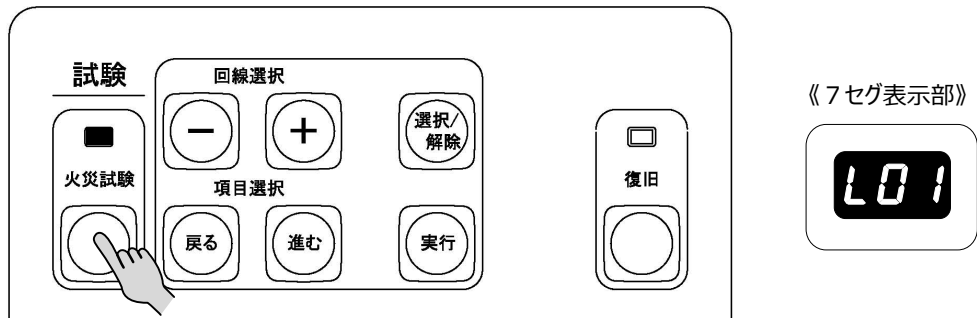
各スイッチ上部の灯と【スイッチ注意】灯が消灯したことを確認してください。

3-5. 火災試験

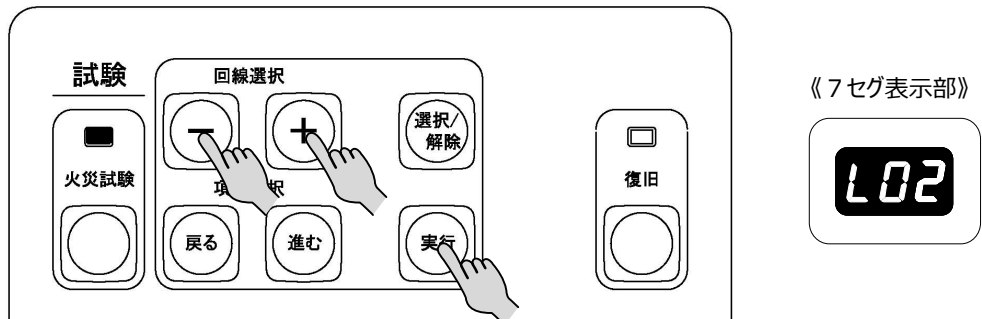
本試験は、受信機が火災発報するため、他設備への火災移報および地区音響の鳴動が行われますので操作には十分注意してください。

■ 火災試験の手順

- ① **火災試験** スイッチを押すと【火災試験】灯が点灯し、試験が可能な状態になります。



- ② 「回線選択」スイッチ **+** **-** を操作し試験を行う回線を選択し、**実行** スイッチを押します。
「7セグ表示部」は、選択中の回線を「L〇〇」という形式で表示します。
蓄積中は、「地区表示窓」、【蓄積中】灯が点灯します。



- ③ 蓄積終了後、【火災】代表灯が点灯し、火災発報状態に移行します。
発報した回線がある状態で続けて試験を行うときに蓄積は行いません。
※即時発報させる場合は、盤内の **蓄積解除** スイッチまたは、盤面の **試験復旧** スイッチを押してください。
- ④ 正常監視状態に戻すには、まず **復旧** スイッチを操作します。
受信機が復旧したら **火災試験** スイッチを押すことで正常監視状態に戻ります。

3-6. その他試験機能

■ 公称蓄積時間及び火災作動受付開始時間（熱感知器の蓄積時間）の測定

1) 公称蓄積時間の測定

火災試験 スイッチを押すと、【火災試験】灯が点灯します。

その後、1 秒以内に再度 **火災試験** スイッチを押すと【火災試験】灯が消灯すると共に【蓄積中】灯が点灯します。

【蓄積中】灯の点灯開始と同時にストップウォッチ等により時間の計測を開始してください。

計測を開始してから一定時間が経過すると【蓄積中】灯が消灯します。

この消灯するまでの時間を「公称蓄積時間」として記録します。この時間が 55～60 秒であれば正常です。

2) 熱感知器の蓄積時間の測定

火災試験 スイッチを押すと、【火災試験】灯が点灯します。

その後、「回線選択」 **+** **-** スイッチでいずれかの回線を選択し、**実行** スイッチを選択すると共に【蓄積中】灯が点灯します。

【蓄積中】灯の点灯開始と同時にストップウォッチ等により時間の計測を開始してください。

この時、選択した回線の【地区表示】灯と【蓄積中】灯が点灯、【スイッチ注意】灯が点滅、「7 セグ表示部」は、試験している回線番号を表示します。

計測を開始してから一定時間が経過すると火災発報し、受信機音響と地区音響が鳴動します。

この受信機音響が鳴動するまでの時間を「熱感知器の蓄積」として記録します。

この時間が 15～20 秒であれば正常です。

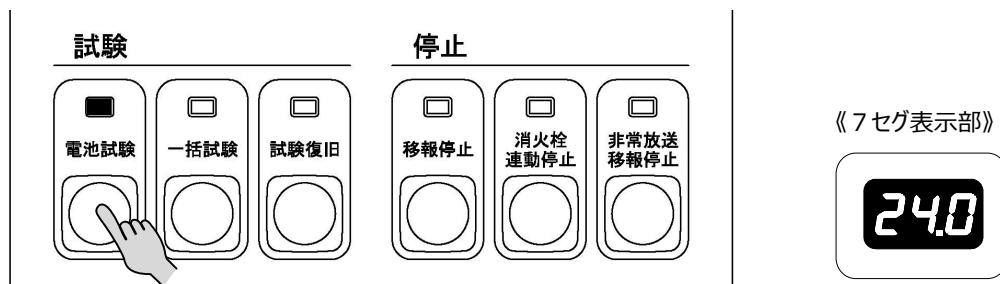
※本試験は選択した回線が実際に作動しますので移報停止等の設定をおこなった上で試験してください。

■ 電池試験

操作部の **電池試験** スイッチを押すことによって受信機の予備電源を試験することができます。

電池試験 スイッチを押し続けると測定時間を延長することができます。

電池試験中は「7 セグ表示部」に現在の電圧値を表示します。



※上図の「7セグ表示部」の例は、24.0V を示しています。

予備電源の電圧値が約 20.4V 以上で正常であれば、試験は自動的に終了します。

異常の場合は、【回路電圧】灯が消灯、【異常】灯が点滅し、「7 セグ表示部」にエラーコードを表示します。

※火災発報中は電池試験できません。

また、試験中に火災発報等が発生したときは、自動的に試験を中断します。

3-6. その他試験機能

2/2

■ 一括試験

操作部の 一括試験 スイッチを押すことによって以下の試験を行います。

- ① 「地区表示窓」、「諸警報 (3 窓) 表示窓」、「操作パネル (小扉内含む)」の表示灯の点灯試験
- ② 「地区回線」及び「諸警報 (3 窓) 回線」の回路作動試験
- ③ 電池試験 (3 秒間)

試験終了後、②、③の試験で異常があれば、受信機音響が鳴動し、「7 セグ表示部」にエラーコードを表示します。

①については、目視での確認で LED に不具合が無いかを確認してください。

■ 定期試験

週に一度、受信機は自動で定期試験を行います。定期試験では、以下の試験を行います。

- ① 「地区回線」及び「諸警報 (3 窓) 回線」の回路作動試験
- ② 電池試験 (3 秒間)

試験終了後、異常があれば、受信機音響が鳴動し、「7 セグ表示部」にエラーコードを表示します。

※各種試験中に実火災の入力が有った場合は、試験は中止され、受信機は火災発報の動作になります。

3-7. ヒューズの交換方法と部品の交換寿命

■ 盤内のヒューズについて

下図の位置 (制御基板) に設置されています。

交換の際には、ヒューズ容量を確認の上、必ず、同じ容量のヒューズと交換してください。

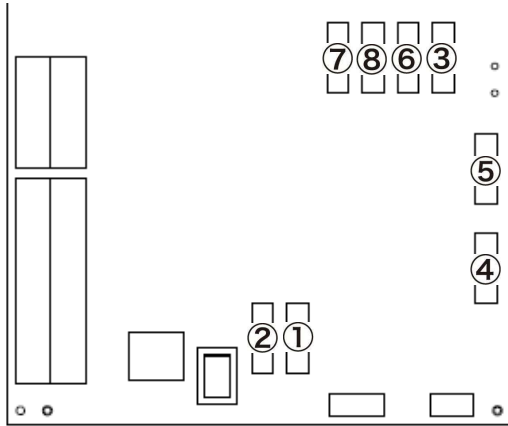


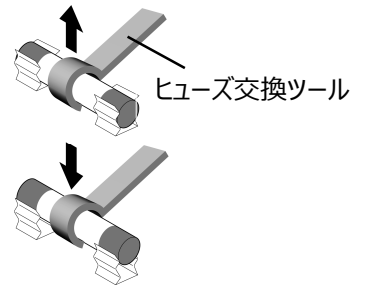
図 3-1 : ヒューズの配置

No	名称	ヒューズ容量
①	F1 主電源一次側ヒューズ	2A
②	F2 主電源一次側ヒューズ	2A
③	F3 表示灯ヒューズ	1A
④	F4 主回路ヒューズ	3A
⑤	F5 予備電池ヒューズ	2A
⑥	F6 地区音響ヒューズ	0.5A
⑦	F7 発信機ヒューズ	0.5A
⑧	F8 副受信機ヒューズ	0.5A

表 3-1 : ヒューズ名称と容量

■ ヒューズの交換方法

- ① **交流電源** スイッチを OFF にし、予備電源の接続コネクタを外してください。
【交流電源】灯及び【回路電圧】灯が消灯している状態を確認し、次の交換作業をおこなってください。
- ② 予備品に入っているヒューズ交換ツールをヒューズにはめて引き抜きます。
- ③ 新しいヒューズの容量を確認し、ヒューズ金具に差し込んでください。
- ④ **交流電源** スイッチを ON にします。
- ⑤ ①で外した予備電源の接続コネクタを元に戻してください。
- ⑥ 「2-1. 正常監視時」(P9) を参照し、正常監視状態を確認してください。



■ 定期的な交換が必要な部品

以下の部品は、定期的な交換が必要です。

表 3-2 : 定期交換部品

部品名	定期交換推奨年数
予備電源	5年
スイッチングレギュレータ	5年



警告

ヒューズ交換は電源 (AC100V) 及び予備電源を切った状態で行う。

感電のおそれがあります。

ヒューズは必ず指定容量のものを使用する。

指定容量以外の使用は、故障の原因や発火、発熱のおそれがあります。

3-8. 予備品リスト

■ 予備品リスト

表 3-3 : 予備品リスト

項 目	個 数 (仕 様)
送受話器 (ケース付き)	2 セット
地区名称シート	火報 5L : 1 枚
	火報 4L/諸警報 1L : 1 枚
	火報 3L/諸警報 2L : 1 枚
	火報 2L/諸警報 3L : 1 枚
	火報 1L/諸警報 4L : 1 枚
	諸警報 5L : 1 枚
諸警報地区名称シート	1 枚
ヒューズ交換ツール	1 個
非常放送用終端器 (RRE)	1 個
終端器 (CRE)	10 回線 : 13 個
	20 回線 : 23 個
ヒューズ	0.5A : 3 個
	1A : 1 個
	2A : 3 個
	3A : 1 個
予備電源 (密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池)	0.6Ah (1 本)

3-9. 定格・仕様

表 3-4 : 仕様

検 定 型 式 番 号	受第 27~4~1 号	
主 電 源	AC100V±10% 50/60Hz	
予 備 電 源	密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池 0.6Ah	
消 費 電 力	最大 80VA	
公 称 蓄 積 時 間	60 秒 (煙 : 60 秒、熱 : 20 秒)	
回 線 数	10L / 20L	
表 示	7セグメント	<ul style="list-style-type: none"> ・発 報 時 : 火災発報第 1 回線 ・異 常 時 : エラーコード ・設 定 モード時 : 該当回線、設定コード ・そ の 他 : 予備電源電圧表示
	L E D	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・火災代表(赤) <li style="width: 33%;">・交流電源(青) <li style="width: 33%;">・保守(赤) <li style="width: 33%;">・電話(赤) <li style="width: 33%;">・回路電圧(青) <li style="width: 33%;">・非常放送中(赤) <li style="width: 33%;">・誤操作防止(赤) <li style="width: 33%;">・スイッチ注意(赤) <li style="width: 33%;">・蓄積中(赤) <li style="width: 33%;">・発信機(赤) <li style="width: 33%;">・異常(黄) <li style="width: 33%;">・消火栓始動(赤) <li style="width: 33%;">・諸警報表示「3 窓」(赤) <li style="width: 33%;">・ベル(地区音響)一時停止(赤) <li style="width: 33%;">・受信機音響停止(赤) <li style="width: 33%;">・各スイッチ(赤) <li style="width: 33%;">・地区表示窓(赤)
操 作 ス イ ッ チ	<ul style="list-style-type: none"> ・ベル(地区音響)一時停止 ・- ・+ ・火災試験 ・試験復旧 ・非常放送移報停止 	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機音響停止 ・進む ・実行 ・電池試験 ・全館鳴動 ・消火栓連動停止
機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・誤操作防止 ・受信機音響脱落監視 	<ul style="list-style-type: none"> ・断線ヒューズ識別 ・電源自動シャットダウン ・断線監視
外 部 配 線 抵 抗	50Ω 以下	
終 端 器	CRE	
受 信 機 音 響	電子ブザー	
外 部 移 信	火災代表移信 : F-F' (a 接点 DC24V 1A)、GA1-GB1-GC1 (c 接点 DC24V 1A) : GA2-GC2 (a 接点 DC24V 1A)、GA3-GC3 (a 接点 DC24V 1A) 第 2 報 移 信 : EF-EC (a 接点 DC24V 1A) 復 旧 パルス移信 : N-N' (b 接点 DC24V 0.5A) 諸警報代表移信 : LXGA-LXGC (a 接点 DC24V 1A) 諸 警 報 移 信 1 : LX1A-LX1C (a 接点 DC24V 1A) 停 電 移 信 : PF-PF' (a 接点 DC24V 1A) システム停止移信 : ST-ST' (a 接点 DC24V 1A) 異 常 代 表 移 信 : K-K' (a 接点 DC24V 1A) 消 火 栓 起 動 移 信 : H-H' (a 接点 DC24V 1A)	
ベル(地区音響)電源	0.2A	
表 示 灯 電 源	0.4A	
接 続 発 信 機	LED 式	
副 受 信 機	PSH 型 最大 2 台接続	
接 続 感 知 器	一 般 感 知 器 : 煙式 KH シリーズ 最大 40 個/回線 平均 20 個/回線 熱式 所要数 (サーミスタ式除く) サ ー ミ ス タ 式 : 熱式 最大 24 個/回線 平均 12 個/回線 試 験 機 能 付 : 煙式 KAD/KAH シリーズ 最大 32 個/回線 平均 16 個/回線 熱式 CR・SR シリーズ 最大 32 個/回線 平均 16 個/回線 煙式 KW・KN シリーズ 最大 20 個/回線 平均 10 個/回線	
使 用 環 境	0℃~+40℃	
外 形 寸 法	315W × 500H × 100D	
質 量	約 4.5kg (電池含む)	
主 要 材 質	PC/ABS 樹脂	
本 体 色	本 体 ・ 扉 : 日塗工 D19-90A 相当	

点検業者	TEL :
施工業者	TEL :
竣工年月	年 月

本社 〒151-8535 東京都渋谷区笹塚 1-54-5 TEL 03 (5333) 8601(代)

ニッタン株式会社

DW1501478 V3 23.05C